

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-151	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
116 日文	社情 317	新・見てわかる社会と情報		

1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領 第1章 総則」, 及び「第2章 第10節 情報」に示された趣旨並びに内容を基にして、教科書の目標である「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」ことを達成するために、教科書としての役割や責任を果たすべく編修に努めた。

本教科書では、学習指導要領に示された内容を達成するために、以下の編修方針のもと、学習内容の配列の検討、教材の選定を行った。

①高校生の身近な題材を用いた教科書

情報社会をよりよく生きていくために必要な素養が多分に含まれた共通教科「情報」の学習は、どのような生徒にも興味・関心を持って取り組んでもらう必要があるとの考えから、生徒の身近な題材を中心とした構成を特に重視した。

②豊富なイラストで「見てわかる」教科書

学習指導要領に示されている内容を過不足なく扱うとともに、その解説は本文3行までの必要最小限に留め、ページの大半をイラストで示すことで「見てわかる」教科書を目指した。本文とイラストとの間には、二人のキャラクター同士のやり取りをはさみ、本文で説明されている内容と身の回りの事象とをつなぐ役割を持たせている。

③情報活用の実践力を無理なく習得できる教科書

情報機器を活用したさまざまな実習を通して、無理なく「情報活用の実践力」を習得できるよう、その操作手順を丁寧に示すとともに、取り組む課題は実用的で現実的なものとし、かつ段階的にレベルを上げることで、課題の達成を繰り返すことによる学習意欲の向上をねらった。

共通教科「情報」の学習での教科書の役割は、生徒の実態や学校の状況によりさまざまであることが考えられるが、本教科書では、生徒がこの教科に興味を持って楽しく授業に参加し、必要な学習内容を無理なく学ぶことができることを重視した。本教科書での学習を通して、他人を思いやり、尊重しながらコミュニケーションができ、身近に起こるさまざまな問題に対して、他人と協力しながら解決していくために適切かつ効果的に情報機器を活用できる力を持った生徒が、生涯にわたって社会の情報化の進展に主体的に参画する素養を身に付けられるようさまざまな工夫を凝らしている。

2. 編修の基本方針

本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、各号に対応した以下の基本方針を定め、編修に努めた。

①学習内容が身近に感じられるイラストを主として構成する

主として第一号との関連から、幅広い知識と教養を過不足なく取り扱い、高校生のキャラクターを中心としたイラストで解説している。それぞれの題材に応じたキャラクターの表情ややり取りを捉えながら、情報モラル及び道徳的な気付きも得られるように配慮した。

②学習したことが将来役に立つ様子を描くこと

主として第二号との関連から、巻頭資料にはさまざまな職業を紹介し、企業などで活躍する若い世代のキャラクターを登場させるなど、生徒自身のキャリア形成と共通教科「情報」の学習内容との密接な関係を示している。創造力を育む場面としては、付箋を用いたアイディア発想の方法などに代表される手法を紹介している。

③情報モラル等に関する内容を充実させること

主として第三号との関連から、インターネットを介したコミュニケーションを行う上では、「情報モラル」が必須であることを各場面で強調するとともに、各実習の中で他人を尊重し、互いに協力することの重要性を自覚できるよう配慮している。

④情報社会における安全を確保できる生徒を育てること

主として第四号との関連から、インターネットは適切な活用ができなければ、最悪の場合、人の生命も脅かす事態にもなりかねず、そうした事件も実際に起こってしまっていることを考慮し、そうした事態を招くことのないよう、注意すべき事柄については特に丁寧に扱った。

⑤他人に対する配慮、思いやりをもった生徒を育てること

主として第五号との関連から、全般にわたり、二人のキャラクターが中心となって他人に対する配慮を感じさせるやり取りを盛り込んでいる。また、章末に設けた漫画形式のコラムには外国人のキャラクターも登場し、国際化する社会の中で、情報機器を効果的に使いながらコミュニケーションを行い、問題を解決していくことの重要性を示している。

3. 対照表

本教科書における教育基本法第二条各号との対応は以下の通りである。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	①情報及び情報技術を活用するための知識と技能を過不足なく取り扱い、情報に関する倫理的な態度、安全に関する態度、規範意識を養う内容を充実させた。	①全般

<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<p>①キャラクターのやり取りには個人の価値を尊重するセリフや行動を盛り込んだ。 ②問題解決の基本的な流れを解説し、自主的な学習活動を展開できるよう配慮した。 ③情報社会における職業と情報との関連を示す資料を設けた。また、仕事でのコンピュータの具体的な利活用の場面を描き、学習することの意義を解説した。</p>	<p>①全般 ②資料5-11, p. 48-53 ③資料3-4, p. 6-7</p>
<p>第3号 正義と責任, 男女の平等, 自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①インターネットを介したコミュニケーションを行う中では、情報モラルが必要であることを強調している。 ②プレゼンテーションの場面では、話し手としての留意事項のほか、聞き手としての留意事項にも触れたほか、SNSを利用した犯罪に巻き込まれないためにはどうすればよいかというグループでの実習を設け、自他の敬愛と協力を重んずる態度の育成を意図している。</p>	<p>①p. 10-15 ②p. 77, p. 93</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①インターネット上のトラブルに巻き込まれないために必要な配慮事項については、特に丁寧に扱った。</p>	<p>①p. 10-15, p. 85-86, p. 91</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①年表では、本書の目指す生徒の身近な題材からの学習展開とも関連し、特に日本の事例を多く取り上げた。 ②章末の漫画形式のコラムでは、外国人観光客の手助けをするためにスマートフォンを活用してなんとかしようとする高校生の姿を描いたほか、外国人留学生が日本の寿司を握りたいという要望をかなえるために奮闘する高校生たちの活躍を描いている。また、突然の豪雨に降られた老人に、スマートフォンのアプリを使って雨の上がる時間を教える高校生の姿を描き、目上の人を敬う態度を高校生の身近な題材から伝えられるよう工夫した。</p>	<p>①資料17-18 ②p. 46, p. 82, p. 162</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

巻頭巻末資料には、生徒の学習意欲を高めるためのさまざまな資料を掲載している。町並みの中に情報が活用されている場面を配した「情報社会（資料1-2）」、最先端の情報技術の例として「クラウドコンピューティング（資料15）」及び「ビッグデータ（資料16）」など。また、折り込みページには「ローマ字入力かな対応表」を掲載し、どのページを開いていても表を参照できる工夫を凝らした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-151	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
116 日文	社情 317	新・見てわかる社会と情報		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「高等学校学習指導要領 第1章 総則」, 及び「第2章 第10節 情報」に示された趣旨並びに内容を基に, 本教科書では特に以下の点に留意した。

1. 高等学校学習指導要領「情報」の目標のうち, 特に「社会と情報」の目標に準拠し, その趣旨・内容を生かした編成としている。また, 義務教育段階までの学習事項や「情報の科学」, 公民科, 数学科をはじめとした他教科, 「総合的な学習の時間」との関連にも配慮している。
2. イラストでの解説をメインとした紙面構成とし, 「見てわかる」教科書を目指した。用語の意味などの解説は「章のまとめ」にまとめるなど, 知識面も十分にフォローした。
3. 身近な事例や原理などをわかりやすく示したイラストや手順を丁寧に示した実習, 漫画によるコラムなどを通して, 生徒が情報の科学的な理解を深め, 情報活用の実践力を伸ばし, 情報社会に参画する態度を身につけられるよう, バランスの取れた構成とした。
4. 高等学校の年間指導計画を参考にし, コンピュータの基本操作と情報通信機器利用時の基本的なマナーや注意事項, 情報モラルを教科書の冒頭で重点的に説明している。
5. 教科書の前半は実習を中心とした教材配置とし, コンピュータ及びアプリケーションソフトウェアの基本操作を確実に習得できるように配慮した。前半で得た知識や技能をさらに理論立てた理解にするための学習内容を, 後半で豊富なイラストや実習とともに示している。

以上のような基本方針を以下のような編集上の工夫によって実現している。

①イラストメインの見てわかる紙面

- ・紙面の大半を占めるイラストでは, メインキャラクターのセリフやイラストを見る際のポイント, 注意しなければならない事項等が無理なく理解できるようレイアウトされている。
- ・本文とイラストのそれぞれの内容を接続するために, メインキャラクターによるやり取りを間にはさみ込むことで, 生徒が身近な事例について思い起こしたり, 原理を比喻や図解などで大まかに理解したりするなど, 関心を高めた上で学習に取り組むことができる。
- ・本文やセリフでは, 文章が冗長にならないように努め, 行をまたがって語句が配置されないようにするなど, 読みやすさに配慮した。また, アルファベット表記の語句や常用漢字のうち中学校以上で学習するものについても見開きページの初出ごとにルビを振り, 理解のさまたげになる要素をできる限り取り除いている。

②体験的な学びをサポートする実習・資料

- ・アプリケーションソフトウェアを用いる実習も配置し, 具体的な完成イメージに向けて, 誰もがその成果に到達できるよう, 操作手順を丁寧に示した。これによって, 生徒の自信を高め, 教科内容に対する関心を持たせることを意図している (p. 34-41, p. 54-63, p. 69-75 ほか)。
- ・アプリケーションソフトウェアの画面イメージを示しながら, 操作手順を丁寧に示すことで, アプリケーション操作の実習書としての使い方もできる。よって, さまざまな実習でもリファレンスとして活用できる (p. 34-41, p. 54-63, p. 69-75 ほか)。

- ・実習中のキーボード入力の際などにローマ字や記号の入力に支障が出ないように、資料 21 を折り込みページとし、どのページを開いた状態でも参照できるようにした。
- ・調べてまとめる実習においても、具体的な手順やワークシートを示し、考えなどを整理しながら目的意識を持って取り組めるようにした。また、他人との話し合い活動などを通して、自分の考えや理解を深めるアクティブラーニングの考えを取り入れた（例えば、p.93「実習 12」など）。
- ・第 3 章 1 節「問題解決をしてみよう」および 2 節「データを分析してみよう」では、問題解決の具体的な場面として、生徒にとって身近なテーマである文化祭の企画立案を例に、表計算ソフトウェアを用いた実習を配置するとともに、情報を整理・分析することでよりよい問題の解決策の発見につながることに、解決策の実施後の評価・改善の重要性なども扱っている。
- ・問題解決の実習でもおもに用いられるスキルは、資料 5-6「アイディアの発想と整理」、資料 7-8「資料（データ）の収集」、資料 9「データの分析」、資料 10「レポートのまとめ方」、資料 11「プレゼンテーション」など、巻頭の資料ページで具体的な手順やポイントを解説している。
- ・第 3 章 3 節「情報をわかりやすく伝えよう」では、情報発信の具体的な場面として、生徒にとって身近なテーマである新入生への部活動紹介を取り上げ、プレゼンテーションソフトウェアを用いた実習を配置するとともに、聞き手に配慮した情報デザインの基礎的な知識やリハーサル的重要性なども扱っている。
- ・情報の発信の実習に関連する資料として、資料 22「スライド配色例」、資料 23「色で伝える情報」、資料 12「動画編集ソフトウェアの使い方」、資料 13-14「HTML で Web ページ作成入門」、資料 24「色見本表 216 色」など、巻末の資料ページにまとめている。

③知識理解を定着させるための機能

- ・重要語句は太字で強調し、関連する事項がある場合にはそのページへのリンクをつけるなどし、知識理解を深められるよう配慮した。
- ・原則として見開きごとに設けている「チャレンジ」では、その見開きでの学習内容を振り返り、実際に課題に挑戦したり、話し合いを通して生徒自身の普段の行動などを振り返るきっかけになることをねらっている。
- ・各章で学んだ知識を整理する目的で、章末には「章のまとめ」を置き、重要語句を解説するとともに、学習の要点を整理している（p. 16-17, p. 42-43, p. 78-79, p. 112-115, p. 154-159）。
- ・「章末問題」では、難易度を変えた多様な問題に取り組むことで、章で学んだ知識の定着度を測り、学習内容を見直すことができる（p. 18-19, p. 44-45, p. 80-81, p. 116-117, p. 160-161）。
- ・「法律解説」では、教科書の中で触れられている主要な情報社会に関連する法律を取り上げ、そのポイントなどをイラストや表などで簡潔に整理することで、生徒が普段の生活の中でも、法律の存在を意識し、確認できるようにした（p. 163-165）。

④生徒の関心を高めるための工夫

- ・資料 1-2 では、キャラクターの自己紹介とともに、情報機器やキャラクターたちが活動する活気のある町並みの俯瞰を描いた。この教科書の世界観を提示し、読者である生徒もその一員として招待する意図がある。
- ・第 1 章 1 節「情報社会に生きるわたしたち」では、「社会と情報」の学習の導入として、コンピュータが社会や企業などでどのように活用されているか、また、情報機器を活用することでどのようなメリットがあるかなど、学習の意欲を高めながら、社会とのつながりを意識させている。実習では、チェックシートで義務教育段階までの学習事項やスキルを確認できる。
- ・第 1 章 2 節「情報モラルを身につけよう」では、いじめや人間関係のトラブル、犯罪に巻き込まれる可能性の高い行為など、生徒自身の人生に悪影響を与えかねない事例を取り上げ、情報モラルの意識を高めることの重要性を強調している。また、チェックシートで普段の行動を振り返り、話し合う活動を取り入れた。
- ・情報モラルに関するイラストは、スマートフォンや SNS のやり取りなど、生徒の身近な話題を中心に取り上げた。
- ・章扉に設けた「YES-NO チャート」は、生徒が自分自身と「情報」との関わりを思い起こしながら自己評価する際や、章の学習内容への関心を高めるのに役立つ（p. 5, p. 21, p. 47, p. 83, p. 119）。
- ・コラムはメインのキャラクターが登場する漫画となっている。このストーリーを通して、コミュニケーションの大切さについて考え、情報社会に主体的に参画する態度を養うことができる

(p. 20, p. 46, p. 82, p. 118, p. 162)。

- ・ ページ番号のとなりには、そのページ番号に対応する2進数を併記し、ページをめくりながら、桁の繰り上がりなどの2進数の原理に親しむことができるよう配慮した。
- ・ 奇数ページの右下には、パラパラ漫画を設け、動画のしくみを理解する際に参照できるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 情報社会に生きるわたしたち			
第1節 情報を活用しよう	(1) ウ	p. 6-9	2
第2節 情報モラルを身につけよう	(3) ア	p. 10-15	2
第2章 コンピュータを使いこなそう			
第1節 コンピュータを使ってみよう	(1) イ	p. 22-31	5
第2節 文書を作成してみよう	(3) ウ (1) イ	p. 32-33 p. 34-41	5
第3章 情報を整理して伝えよう			
第1節 問題解決をしてみよう	(4) ウ (1) ア	p. 48-50 p. 52-53 p. 51	3
第2節 データを分析してみよう	(4) ウ	p. 54-65	6
第3節 情報をわかりやすく伝えよう	(1) ウ	p. 66-77	8
第4章 情報社会の課題について考えよう			
第1節 情報化が社会に及ぼす影響と課題	(3) ア	p. 84-93	6
第2節 情報セキュリティの確保	(3) イ	p. 94-101	6
第3節 情報社会における法と個人の責任	(3) ウ	p. 102-111	5
第5章 情報社会のしくみを知ろう			
第1節 情報通信ネットワークとコミュニケーション	(1) ア (2) ア (2) ウ	p. 120-123 p. 124-125 p. 126-129	5
第2節 情報のデジタル化	(1) イ	p. 130-137	7
第3節 情報通信ネットワークのしくみ	(2) イ	p. 138-145	5
第4節 望ましい情報社会を築く	(4) ア (4) イ	p. 146-149 p. 150-153	5
計			70